

46名組合員中38名が参加 木更津支部定期大会圧倒的成功

久留里線合理化を計る体制を確立

木更津支部定期大会は1月30日、木更津支区講習室で本部から中野書記長、山口交渉部長も参加して開催された。大会には代議員をはじめ勤務以外の全組合員が参加する体制の中で46名組合員中38名が結集した。この間、木更津支部が組合員数46名の小さな支部であることのハッパを乗り越え、家庭的なふん囲気の中にも、全員で厳しく運動を考え、日常活動、動員体制等動労千葉の中でも最も活発な闘いを展開してきた成果があふれるように大会全体に反映した。すばらしい支部大会であった。

80年代を闘い抜ける支部体制を確立しよう！——斉藤支部長あいさつ——

大会は12時50分、高橋教宣部長の開会のあいさつで始まり、議長に松本代議員（八乗務員分科）を選出して議事が進められた。冒頭あいさつに立った斉藤支部長は「30結成以降『本部』反動分子との対決に勝利し、支部の団結を守り、本日、第2回定期大会を開催することができた。

不当処分、局報号外に見られるように当局と『本部』反動分子の一体となった組織破壊攻撃が強まっております、気を許すことはできないが、この間の闘いを生かしてより一層の団結を固めてゆきたい。

イラン・アフガニスタンの情勢、三里塚、沖縄、リムパック等々、内外ともに80年代の激動を予測させる。

このような情勢の中で、35万人体制攻撃を許さず80年代を闘い抜ける労働運動を創りあげてゆくため、木更津支部の団結を強化するため活発な討論をもって方針を確立してほしい。執行部は闘いの先頭に立って闘う」と力強い決意を明らかにした。

活発な討論を展開

大会は続いて本部を代表して中野書記長からのあいさつ、執行部からの経過報告、会計報告、会計監査報告、運動方針、予算案の提案を受けて質疑討論に入った。

討論は、35万人体制攻撃と関連したローカル線廃止、久留里線電化の問題、特退補充と要員の問題、佐倉・銚子支部結成の問題、「本部」反動暴力集団の動向を中心とする全国情勢、組合費の問題等に質問が出され、本部、支部からの答弁も含め活発な討論が行われたが、久留里線の問題、木更津がD区であるということも含めた要員問題に特に質疑が集中した。

討論の上で、久留里線の第三セクター移行を絶対に許さない職場の闘いを強化してゆくとともに電化、電車仕業を持つということ、地域手当を獲得してゆくこと等々、木更津へ転勤希望者が集まるような状況を創り上げてゆくために全体でがんばってゆくことを確認し、16時30分、満場一致で運動方針を確立した。

和気あいあいの支部旗開き

斉藤支部長の団結ガンバリをもって大会を終了した後、全員が参加する中で会場を移して、17時30分から支部旗開きが開催された。

本部・中野書記長、山口交渉部長も参加する中で大会とは一味違った討論が行われ19時30分まで和気あいあいのふん囲気の中で親睦が深められていった。

大量オルグと2億円とも言われる組合費を湯水のように使い、当局にまで泣きついた「本部」の組織破壊攻撃を打ち破った自信と確信がより一層強固に打ち固められた一日であった。

この木更津支部定期大会の圧倒的成功を一四〇〇名全体のものとして、さらに前進してゆこう。

訃報

故田山茂君安らかに眠れ

1月31日、成田支部・車両検査係故田山茂君（20才）の葬儀が茨城県鹿島郡銚田町の自宅においてしめやかに行われた。

1月26日、23時頃、成田市開護台地先において自動車事故のため翌27日急逝された故田山君の訃報に、成田支部はじめ他支部からの仲間がかけつけ驚きと悲しみのうちに、生前の彼の快活だった人柄をしのびつつ野辺の送りを行った。動労千葉からは、関川委員長、関執行委員が参列し、故人の霊をなぐさめた。謹しんで全組合員にお知らせするとともに故人の御冥福を祈ります。